

### 133 弟子の条件(弟子となるための覚悟)

ルカによる福音書 14 : 25~35 (マタイ 10 : 37~38)



25 大勢の群衆が一緒について来たが、イエスは振り向いて言われた。

26 「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら (→憎まない者は／憎むのでなければ)、わたしの弟子ではありえない。

→どんなことよりも、イエスに従うことを最優先しなければ、イエスの弟子となることはできない。

(回復訳) だれでもわたしの所に来て、自分の父、母、妻、子供、兄弟、姉妹、さらに自分の魂の命までも憎むのでなければ (→新改訳、真理発見訳：憎まない者は)、わたしの弟子になることはできない。

(リビング・バイブル) だれでも、わたしに従いたければ、父、母、妻、子、兄弟、姉妹以上に、いや、自分のいのち以上にわたしを愛しなさい。

(口語訳) だれでも、父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分の命までも捨てる、わたしのもとに来るのだから、わたしの弟子となることはできない。

→憎む=選ばない≒優先しない ⇔ 愛する=選ぶ≒優先する

→ローマの信徒への手紙 9:13 「わたしはヤコブを愛し、／エサウを憎んだ」と書いてあるとおりです。

27 自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。

→十字架を背負う=イエス・キリストが歩まれたように歩む。

→罪人は、十字架の横木を背負って、刑場まで歩かされた。十字架は、ローマ人が犯罪者や反逆者を死刑にするために用いて以来、苦難の象徴であった。十字架上で死に至るまでには大抵、長い時間がかかり、苦痛が大きく、窒息死する場合が多かった。

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 5 / 聖句等の総数 33250 <十字架を背負って>4個 <十字架を担って>1(新共同訳) [検索語彙 : 十字架を背負って・十字架を担って]	聖書Navi Active 393128091
S マタイによる福音書	10:38 また、自分の十字架を担ってわたしに従わない者は、わたしにふさわしくない。	
S マタイによる福音書	16:24 それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。	
S マルコによる福音書	8:34 それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。	
S ルカによる福音書	9:23 それから、イエスは皆に言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。	
S ルカによる福音書	14:27 自分の十字架を背負ってついて来る者でなければ、だれであれ、わたしの弟子ではありえない。	

#### 【参考】 東照公御遺訓 人の一生は重荷を負ひて遠き道を行くが如し、急ぐべからず

東照公御遺訓  
 人の一生は重荷を負ひて遠き道を行くが如し、急ぐべからず。不自由を常とおもへば不足なく、ころも望みおこらば困窮したる時を思ひ出すべし。堪忍は無事長久の基、いかり(→怒り)は敵とおもへ。勝(つ)事ばかり知(り)て、まくる事をしらざれば、害其身にいたるおのれを責(め)て人をせむるな。及ばざるは過(ぎ)たるよりまされり。

人の一生は重荷を負(ひ)て遠き道をゆくが如し  
 いそぐべからず  
 不自由を常とおもへば不足なし  
 こころに望(み)おこらば 困窮したる時を思ひ出すべし  
 堪忍は無事長久の基 いかり(→怒り)は敵とおもへ  
 勝(つ)事ばかり知(り)て まくる事をしらざれば 害其身にいたる  
 おのれを責(め)て人をせむるな  
 及ばざるは過(ぎ)たるよりまされり

よくよく考えなさい

- 28 あなたがたのうち、(見張りの) 塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。
- 29 そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけて (→嘲って：馬鹿にして笑い)、30 『あの人は建て始めたが、完成することはできなかった』と言うだろう。
- 31 また、どんな王でも、ほかの王と戦いに行こうとするときは、二万の兵を率いて進軍して来る敵を、自分の一万の兵で迎え撃つことができるかどうか、まず腰をすえて考えてみないだろうか。
- 32 もしできないと分かれば、敵がまだ遠方にいる間に使節を送って、和を求めよう。

33 だから、同じように、自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではありえない。」

→ (リビング・バイブル) そういうわけで、だれでも、自分の財産を数え上げ、それを全部わたしのために捨てるのでなければ、わたしの弟子になることはできません。

34 「確かに塩 (→弟子の性質、献身) は良いものだ。だが、塩も塩気がなくなれば、その塩は何によって味が付けられようか。35 畑にも肥料にも、役立たず、外に投げ捨てられるだけだ。聞く耳のある者は聞きなさい。」

→塩は生きるための必需品で、食物に味を付けたり (→調味料)、特に肉と魚を保存する (→腐敗防止効果) ために用いられた。塩気を無くした塩はもはや役に立たなかった。

→現代の塩は精製塩なので、このようなことは起こらないが、この時代の塩は不純物が多く、塩分が溶け出して、何の役にも立たない不純物だけが残ることがあった。

→歴代誌下 13 : 5 イスラエルの神、主が、【塩の契約】 (→永遠に変わらない契約) をもって、イスラエルを治める王権をとこしえにダビデとその子孫に授けられたことを、あなたたちが知らないはずはない。民数記 18 : 19 イスラエルの人々が主にささげる聖なる献納物はすべて、あなたとあなたと共にいる息子たち、娘たちに与える。これは不変の定めである。これは、主の御前にあって、あなたとあなたと共にいるあなたの子孫に対する【永遠の塩の契約】である。」

【参考】 イエスの弟子になったときの犠牲を計算する

犠牲を理解し、全面的に献身する弟子は、キリストにとっては「塩」(真の弟子) である。→申命記 6 : 4~5

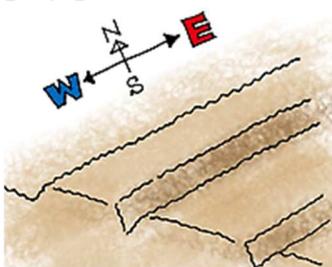


【参考】 塩の秘伝の農法

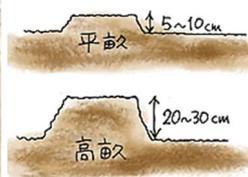
「日本農業全書」(1697年)によると、日本では海水や海藻が農業に使われており、例えば、以下のような事例が記録されている。

1. 寒中に海水を汲み取って風呂の残り湯を混ぜ、下肥に混ぜて使うとムギの細根が十分に広がる。
2. ナスが急に枯れしぼむ (青枯れ) ときに、塩汁や海水をかける。
3. ミカンの根に下肥を施し、5月の頃に枯れたイネの苗を置き、寒中には海水をかける。
4. サツマイモを作る際、冬に取った海藻を腐らせ、それを根元にひとつまみずつ置く。
5. ムギの肥料に海水を2割程入れる。 6. 乾燥させた海藻はすべての作物によい、等々。

【一言】 畝(うね)



植物(野菜)は水はけのよい土壌を好むので、一定の高さと幅を持たせた畝を作ることによって、根が水につかって根腐れしてしまう危険性を減らすことができる。



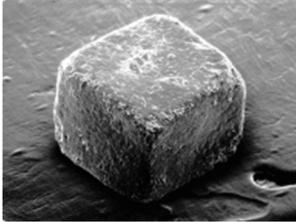
畝の向きは、平地では東西へと横に細長くつくり、畝の高さから「平畝」と「高畝」とがある。

出典(図) : HONDA [畝をつくらう](#)

【参考】 塩 NaCl

塩化ナトリウムが主成分、海水の乾燥・岩塩の採掘によって生産される。調味料とし、また保存（塩漬け・塩蔵：えんぞう、塩づけ保存）などで用いられる。

塩の結晶の基本の形はサイコロ状の正六面体です。作り方によって、さまざまな形の塩をつくることもできるが、この正六面体の結晶が基本となっている。



出典：The Salt Industry Center of Japan

タイトル(書名)	章:節 聖句	〔検索対象総数：5 / 聖句等の総数 33250 <塩>16個〕	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙：塩]
S マタイによる福音書	5:13	「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。」	
S マルコによる福音書	9:49	人は皆、火で塩味を付けられる。	
S マルコによる福音書	9:50	塩は良いものである。だが、塩に塩気がなくなれば、あなたがたは何によって塩に味を付けるのか。自分自身の内に塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい。」	
S ルカによる福音書	14:34	「確かに塩は良いものだ。だが、塩も塩気がなくなれば、その塩は何によって味が付けられようか。」	
S コロサイの信徒への手紙	4:6	いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい。そうすれば、一人一人にどう答えるべきかが分かるでしょう。	

塩と同じく人間にとって重要な「水」に関する聖句(一部)

タイトル(書名)	章:節 聖句	〔検索対象総数：9 / 聖句等の総数 33250 <水>13個〕	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙：水]
S マタイによる福音書	10:42	はっきり言うておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。」	
S ヨハネによる福音書	4:7	サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。	
S ヨハネによる福音書	4:9	すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。	
S ヨハネによる福音書	4:10	イエスは答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」	
S ヨハネによる福音書	4:11	女は言った。「主よ、あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。」	
S ヨハネによる福音書	4:12	あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」	
S ヨハネによる福音書	4:13	イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渇く。」	
S ヨハネによる福音書	4:14	しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」	
S ヨハネによる福音書	4:15	女は言った。「主よ、渇くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」	